
魔法少女リリカルなのはに転生未遂

リンダメタリカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはに転生未遂

【Nコード】

N3342W

【作者名】

リンダメタリカ

【あらすじ】

俺の名前は（元の名前だが……）山崎英人、退屈で平凡な日常に飽き飽きしていたところ神様のミスとやらでトラックに轢かれることに……。それで償いとしてリリカルなのはの世界で思いつく限りのチート能力をもらって無双することにしたぜ！ 原作ブレイク？ 知ったことか！ 世界はオレの為にある！！

(前書き)

世にも稀な転生未遂ものです。読者様の目には転生アンチに映るかもしれませんが自分にはそんなつもりは一切ありません。しかし筆者自身が読んでも転生物アンチに見えてしまうくらいですので、転生物が大好きな方は気分を害する恐れがありますのでご注意ください。

「山崎英人さんですね。この度は誠に申し訳ありませんでした」

「え、いや、あの、これは……っ！」

どこにでもある公立高で精神年齢の低い餓鬼共と同じ空間で過ごすといういつもの苦行を終えた俺の名前は山崎英人。

真の自分の居場所であるネットゲームをするため、子供のことなど何もわかっていない馬鹿な親が待つ家へと帰っている途中、突如目の前に信号無視のトラックが現れた。

そして俺はそのトラックを避けること能わず数瞬後には俺の体を吹き飛ばすであろう鉄塊への恐怖から目を瞑ったその時、世界が一色となり、恐る恐る目を開けた俺の目の前には地平線が見えるほど広い白い空間と二人の人物がいた。

「あの、あなた達はもしかや……？」

「ええ、私はアテネと申します。こちらの上位神様の助手を務めさせていただいております」

先ほど謝罪した美しい女声、アテネがそう説明する。

もう一人のほうは大きな執務机に座り、長い白鬚を右手で撫でているようでこちらを気にする様子は見られない。

「えっと……確かに俺は山崎英人ですが、事情を説明していただけませんか？」

あまりにもテンプレな展開に俺は期待を隠せずにはいられなかった。

「はい、実は私が貴方の歴書、これは個人の運命の予定表だと思ってもらって構いません。それを誤ってシュレッダーに掛けてしまったため、貴方は予定より遥かに短い死を迎えることになってしまったのです」

「ほうほう！ それは許せませんー！」

彼女は思いつめたように罪を告白してくれる、無論、今後の展開次第では感謝することすらアレ恨むことは決してありえないのだが、ここは出来る限り不満な態度を見せて良い条件を引き出すべきだろう。

長年に渡り親の財布から隠れて小遣いをもらっていた俺の演技力を見せてやるぜ！

高校生に月二千円なんて頭のおかしい額を渡してきやがるから仕方なく俺が常識的な額になるよう徴収していた。

もし気がついていたらとしてもあの馬鹿な両親もドアの隙間から金を差し込む手間が減って感謝していたかもしれない。

「……つきましては、歴書の複製は重罪にあたりますので元の世界に貴方を戻すことは難しいのですが、もし貴方が希望するのであれば貴方の望む異世界に転生させていただこうと思うのですがいかがでしょうか？」

「そうか、なら転生先はリリカルなのは世界で頼む。名前は、そうだな……、神条宗治ってのがカッコイイな。時代は無印、なのは達と同年が良いな、高町家の隣に住んでいて、家族ぐるみの付き合いの中で俺となのはは自然に親しくなっている。そして家は実は世界でも有数の大金持ちで社交界を通してアリサや鈴鹿の二人とはなのはより早く仲良くなっているように、外見は日本人離れた目鼻立ちの整った少し彫りの深いイケメン顔、あ、目はもちろん銀と金のオッドアイだね。身長は第二次成長が収まる頃には184センチくらいがベストかな、ニコポやナデポはもちろん必須で、能力に関しては、既存のアニメやマンガなどの創作物の力はすべて使えること、Fateのギルガメッシュの様にありとあらゆる宝具が使えるとカッコイイよね。あと自由に物を収納できる亜空間魔法が使えること、魔力は無尽蔵でランクはEXでいいのかな？ まあつまり無尽蔵ってことで、あと自分で自由にアイテムを作ったり魔法を作成したり出来ること、ハガレンの錬金術の制限なしって感じかな？ デバイスとジャケットについては〜」

以降約10分間に渡り転生先の設定を話すことになった。

あとでどんなことが起きても対処できるように微に入り細を穿つように設定を決めておかなければいけない。

……しかしずっと話し続けるのは疲れたな。そもそも向こうのミスなんだから心を読むなりして予めそっちで全て用意しておくとかしとけよ全く気が利かないなこいつら。

「承りました。この度はこちらのミスで大変なご迷惑をお掛けすることになってしまい、誠に申し訳ありませんでした」

私は自らの上司にそう尋ねる。

あれとはもちろん先ほどまでこの場所にいた少年の処遇についてである。

「どついう意味じゃ？ 彼も満足して夢の中へと旅立っていった。お主のミスを知るものはこれでワシとお主自身だけじゃ」

「それはそうですが……」

「彼は自らの夢の中で、自分に優しい、都合の良い理想の世界で本人曰く血も滲むような努力をして生きて行くのだろう。彼にとって都合の良い敵は彼の新たな人生の適度な刺激となり、修練や鍛錬といった過程を無視した不相応な力を持って原作の登場人物達にでも講釈でも垂れるのだろう。いつものことじゃ」

上司の言葉はまったくもって正論だった。

天は自ら助くる者を助く。

現実から目を背け自分にとって都合の良い世界を夢想する彼の希望を聞いてやるほど神界も暇ではないのだ。

彼は安置所で虫以下の大きさの光の粒子となり、永遠に全てが自分の思い通りに進む世界、夢の中でのアクセシントですら深層意識で創り上げられた居心地の良い世界で過ごしていくのだ。

人間界で言う胡蝶の夢によく似ているかもしれない

ただ一つ違うのは戻ってこれないということころだが。

「アテネよ、よく覚えておくが良い。自らのミスで誰かに不利益を与えてしまった場合、まず第一に考えるべきは謝罪や贖罪などではなく隠蔽なのだよ」

「上位神様……」

「今回はこちらのミスであった。だが、だからといってむしろ神界の住人が二物どころか数十数百も才能や能力を与えるわけには行かない。たとえそれが人間共の被造物であったとしてもな」

普段は好々爺として知られる彼であったが、そう告げる彼を見て私は恐怖で身が竦む事を抑えることが出来なかった。

歴書は輪廻の輪にも大きな影響をあたえるため取り扱いには細心の注意が必要とされている重要書類である。

既に天寿を全うしたものの歴書を処分する際に、私が間違えて先ほどの彼の歴書を処分してしまったことが事の発端である。

それを直属の上司に相談したところ、上位神様の計らいで彼が本来全うするはずだった寿命の間安置所で夢を見て過ごしてもらったことになった。

時が来れば彼は輪廻の輪に戻り記憶はリセットされ次の生に、彼は手癖が悪かったため人間にはなれないが、今度こそ本当に転生するため私の不祥事が発覚することはまず無い。

「まあ彼がもう少しましな人間であれば特典なしで希望する世界に

転生くらいはさせてやっても良いかと思っていたのだが、あれではのう……」

そう少し残念な調子で呟く上位神様の気持ちは事実で、私は上司が久しぶりに生で、神として対面する人間に対して期待していたことを知っていた。

しかし彼の一方的な要求、聞くに堪えない、まさしく子供のような主張に目尻がどんだん下がっていくのを私は気付いていた。

「そういえば人間の誰かが言っていたな。私たちの人生は、私たちが費やした努力だけの価値がある、とな。誰か彼に教えてやれんかったのかのう」

すでに先ほどの鋭い目は消え去り、既にいつもの穏やかで神界で誰からも良く慕われる老人に戻っていた

「それは人の子らの問題で、上位神様が気に病まれる必要はありませんよ」

「だといいんじゃないが……」

「あ、そういえばこないだ人間界にすごく美味しいお店見つけたんですよ！ もしよろしければ今度の飲み会で行きませんか？」

「ほっほっほ。楽しみにしておくよ」

「はい！」

そうして私たちは通常業務に戻ることになる。

すでに私たちの頭の中は目の前の仕事に向いており、他の取るに
足らない余計な事を考える事はなかった。

(後書き)

はっはっは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3342w/>

魔法少女リリカルなのはに転生未遂

2011年11月16日13時06分発行